

吸虫の幼生が寄生した田辺湾産フウセンクラゲ型幼体

Shin KUBOTA : Trematoda larva parasitized to cydippid larva
from Tanabe Bay, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

刺胞動物門ヒドロクラゲ類にはしばしば吸虫の幼生が寄生しているが (KUBOTA, 1978; 築地新・久保田, 2003)、今回、珍しく有櫛動物門のクシクラゲ類幼体に同様の現象が見られたので記録しておく。

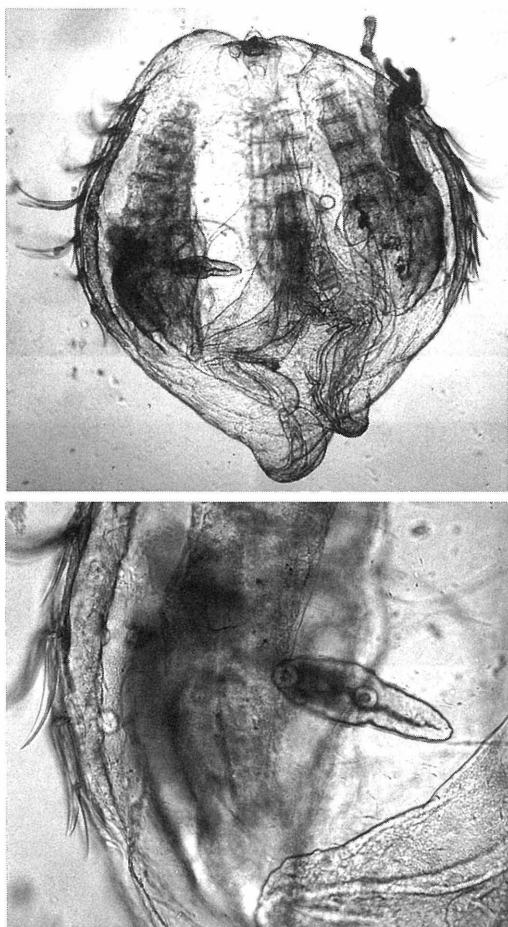


図1, 2 和歌山県田辺湾産フウセンクラゲ型幼体 (体長2.0 mm) に寄生していた吸虫の幼生とそのクローズアップ (生体)

2012年8月9日午前9時半頃に和歌山県田辺湾口水深32m地点で小型プランクトンネットを鉛直曳し、本個体を採集した。フウセンクラゲ型幼体2個体を検査したが、そのうちの1個体 (体長2.0mm) の体のやや後方のゼラチン質中に吸虫の幼生が1個体寄生していた (図1, 2)。どちらの種も種レベルまでの査定は困難であった。

引用文献

- 築地新光子・久保田 信. 2003: 鹿児島湾に出現した多数のベニクラゲ (刺胞動物門, ヒドロ虫綱, 花クラゲ目) とその若返りについて. 日本生物地理学会会報, 58, 35-38.
- KUBOTA, S. 1978: The Life-History of *Clytia edwardsi* (Hydrozoa: Campanulariidae) in Hokkaido, Japan. Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University. Series 6, Zoology, 21(3), 317-354.

京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所
(〒649-2211 西牟婁郡白浜町459)